

小学校 通常の学級での支援



不器用
運動がにがて
読字がにがて
書字がにがて



ノートをとることが遅い。
書きまちが多い。



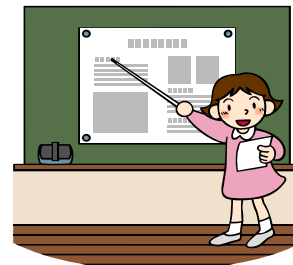
ゆっくり待ちます。
全部できなくてもOKだと伝えます。
太い軸のシャープペンなどで書かせます。
大きな文字で読みやすくします。



しえんする



豊かな発想を生かす場を設定します。
周囲の児童への理解を促します。
「他の友だちも手を挙げて当ててほしいようにしているよ」と周りへの注意喚起を促します。



縄跳びや体操がにがてで、一生懸命練習するが、できないことが多い



あきらめずに練習することをほめます。
できるところから一緒に練習をします。



学習支援の例

2 特殊音節(拗音)が学習しにくい。

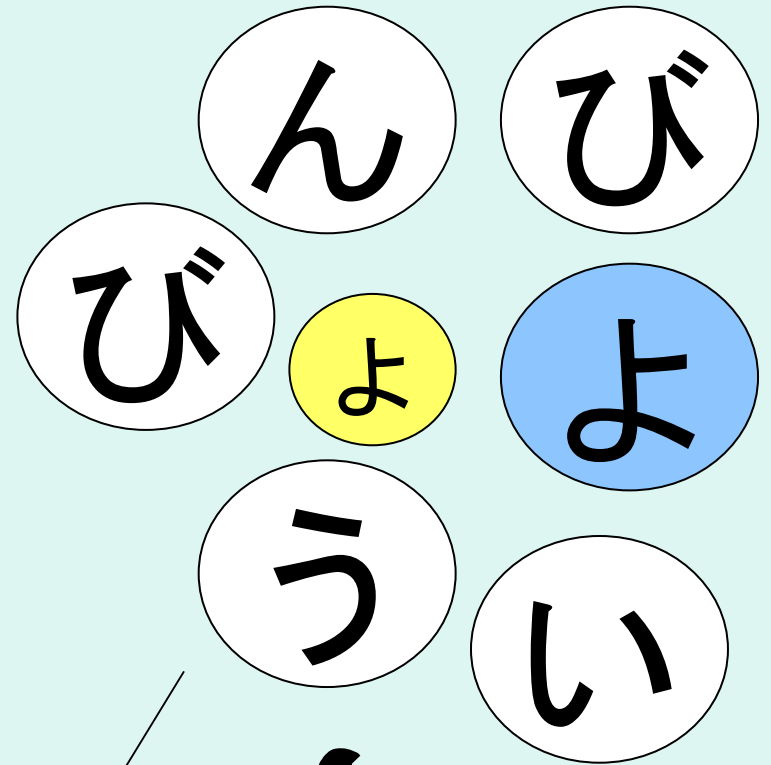
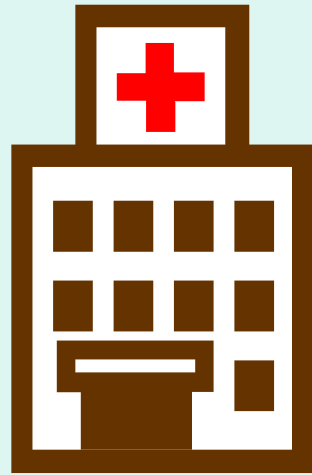
びょういんとびょういんが分からない。

どうして？

- ・視覚の認知が弱いため、大きい「よ」と小さい「よ」の区別が困難。
- ・音の認知が弱いため、「び」と「よ」を合わせる音が
byoとなることが覚えられない。
- ・聞いたもののイメージがわきにくい。
- ・不器用で、小さい「よ」を書きにくい。

マッチングかるた

○の文字カード
を下の四角に
いれて、小さい
「よ」と大きい
「よ」の使い分
けを子ども自身
が考える



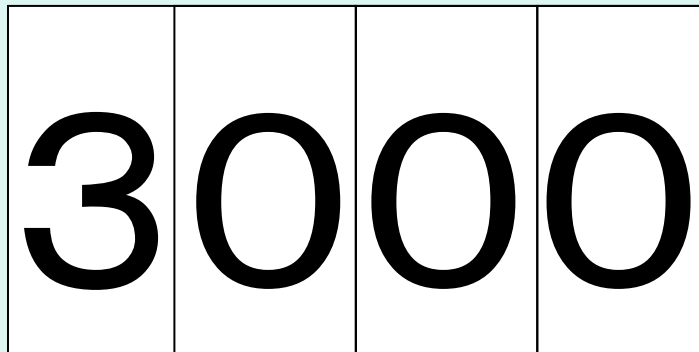
学習支援の例

3 位取りが理解しにくい

三千四十七を300047や347と書いてしまう。

どうして？

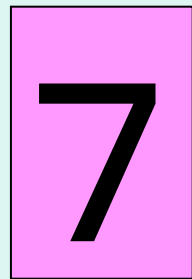
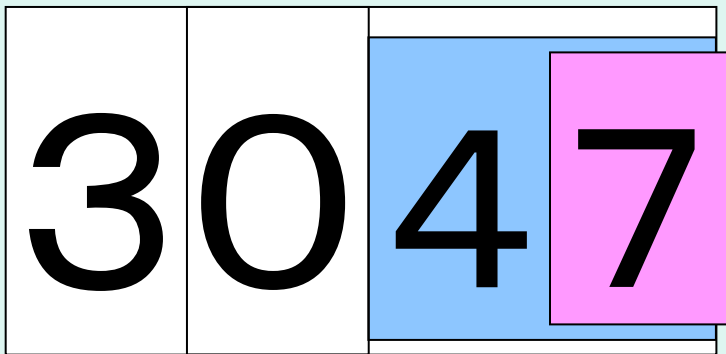
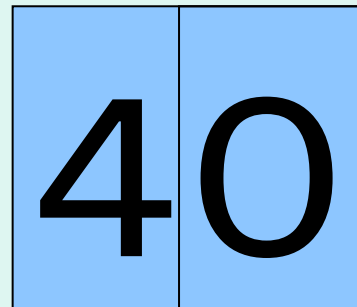
- ・視覚でとらえたものと聴覚でとらえたものが合っていない。
- ・視覚の短期記憶が弱く、位の位置が覚えておけない。



3047

※自分でものさしを操作させる

3000と40と7





学習支援の例

4 ルールが分かりにくい

授業が始まると10分で離席してしまう。

「座って」と言っても座れない。

どうして？

- ・終了の予測が立たず、つい我慢できない。
- ・学習内容が理解できない。
- ・本人なりの理由があって、悪気がない。

対 応



- ☆ **5分後の〇分には戻ってくるように約束。**
- ☆ **どこに行くのか場所を言わせる。**
(千ヶツト作成)
- ☆ **離席しそうになった時に役割を与える。**
- ☆ **怒る前に、児童生徒にどこかへ行こうとする「理由」を聞く。**
- ☆ **時間の経過を視覚に訴えかける。**